

地域情報（県別）

【東京】全国でも少ない足専門クリニック「開業のきっかけは海外の医療に触れたこと」-吉原正宣・足と歩行の診療所院長に聞く◆Vol.1

2022年12月23日（金）配信 m3.com地域版

足の悩みやトラブルを専門に診る珍しいクリニックが東京にある。「足と歩行の診療所」の吉原正宣院長は2018年に蒲田に本院を開き、2021年には荻窪に分院を設けた。米国由来の「足病学」をベースに診療しているというが、これはどんなものか。また、全国的にも少ないであろう専門クリニックを開いた経緯は。「アメリカの足病医と出会ったことが転機でした」と話す吉原院長に振り返ってもらった。（2022年11月11日インタビュー、計2回連載の1回目）

▼第2回は[こちら](#)



吉原正宣氏（本人提供）

——院名から、「足と歩行の悩みに応えるクリニック」という理解で良いでしょうか。まずは概要を教えてください。

言われる通り、足の悩みやトラブルに広く対応するクリニックです。2018年に蒲田駅から徒歩1分の場所に開院し、2021年4月に荻窪駅から同2分のところに分院を開きました。いずれも駅のそばにあるのは、患者層を考慮して「歩きづらい人でも来やすいように」との思いからです。

現在、本院のスタッフは非常勤を含めて11人おり、私を除いて放射線技師1人、看護師3人、診療補助3人、受付3人という構成です。1日の外来患者数は50～60人ほどで、患者さんは男性より女性の方が多く、年齢は40代以降が中心です。診療方法としては外来だけでなく在宅医療とオンライン診療も行っています。

——足を専門に診るクリニックは全国でも少ないと思います。開業の経緯は。

私は2007年に関西医科大学を卒業後、形成外科医として糖尿病や動脈硬化などに起因する足の潰瘍をよく診ていました。そんな中、ある医師と出会ったことが転機となりました。京都市の洛和会音羽病院に在籍していたころに知合った、アメリカの足（そく）病医・李家中豪（りのいえ・ちゅうごう）先生です。

台湾出身の李家先生は日本の高校を出た後、アメリカで医師免許を取得し、足病外科の専門医として多くの難治性潰瘍の治療に携わりました。私はそんな先生から指導を受ける機会に恵まれ、さまざまなことを教わりました。糖尿病の患者さんに繰り返し潰瘍ができるのは病気によるものだけでなく、足への負担が大きく影響する場合もあることなどです。

私は先生から学ぶうちに足のトラブルの奥深さに感じ入り、日本と海外の医療の違いも知っていきました。「日本にも、足を専門に診る医師がもっといた方が良いのでは」。新たな道が見えた気がしました。

——アメリカには「足病医」という存在がいるのですね。日本ではまだ普及していませんが、海外ではどんな状況なのでしょう。

私が診療のベースとする「足病学」は、アメリカでは150年以上の歴史があると言われています。発祥は不明ですが、アメリカの第16代大統領リンカーン（在任1861～65年）には専属の足病医がいたそう。今はイギリスやドイツ、オーストラリアなどでも足を専門に診る医療が行われています。アメリカには李家先生のように足病外科の専門医がおり、ドイツにはフットケアに注力する医師がいるなど国によって特徴は異なるようです。当院には海外出身の患者さんも多いですが、中には「母国では足病医に診てもらっていた」と話す人もいます。

足病学は足のトラブル全般に対応することを想定したもので、具体的な病名としては切り傷や捻挫、骨折などの外傷、スポーツによる障害、いぼ、たこ、魚の目などのできもの、水虫や巻き爪などが挙げられます。整形外科やスポーツ整形、形成外科、皮膚科など広い領域を横断的に診ることが特徴です。

——足病学を学んだ後、開業したのですね。

はい。李家先生に師事した後、下北沢病院に足を総合的に診る部門「足病総合センター」ができると聞き、縁あって私も参画を打診されました。2016年のセンター開設から1年余り診療した後、2018年にクリニックを開きました。

開業したのは、もっと患者さんに近いところで診療したかったためです。病院に来る患者さんの多くは既に病気が進行しており、「もっと早く診られていれば……」とはがゆい思いをしたことが少なくありません。病気の予防と早期発見、早期治療を行い、「歩けなくなる患者さんを一人でも減らしたい」と思ったのです。

——診療の流れを教えてください。

視診や触診によって患者さんの姿勢や歩き方などを確認し、必要だと思われる検査を行います。検査内容としては、骨密度測定やレントゲン撮影、超音波検査、計測装置を用いて患者さんの歩き方を視覚的に分析する「歩容（ほよう）解析」があります。場合によっては他院でCT検査やMRI検査を行うこともあります。

治療方法はさまざまで、靴の選び方や履き方、歩き方をアドバイスしたり、ストレッチや筋力トレーニングの方法を指導したり。医療用インソールの作成や包帯を使った圧迫療法、投薬、注射、巻き爪や外反母趾の日帰り手術、衝撃波を当てることで改善を試みる衝撃波療法も含まれます。

◆吉原 正宣（よしはら・まさのぶ）氏

2007年関西医科大学卒。洛和会音羽病院形成外科や下北沢病院足病総合センターなどを経て、2018年に「足と歩行の診療所」を開院。日本形成外科学会形成外科専門医、日本抗加齢医学会専門医など。

【取材・文＝医療ライター庄部勇太】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

